

初期臨床研修プログラム:検査科(病理)

コース責任者: 関谷政雄 指導医: 関谷政雄 上級医: 巻淵隆夫
コースの位置づけ: 臨床科の研修の一部として(但し、CPC は必修)、
あるいは選択科として1ヶ月から

I 一般目標(GIO : General Instructional Objective)

- 1) 臨床における生検、細胞診、病理解剖(剖検)の役割を理解する。
- 2) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患などの病理の概略を理解する。

II 行動目標(SBOs : Specific Behavioral Objectives)

- 1) 病理解剖の法的位置づけ、注意点、体制、感染症対策、標本処理、染色の使い分け、病理剖検輯報を理解する。
- 2) 剖検が行われる場合、担当患者であるなしに関わらず出来るだけ参加し、病理解剖の具体的方法を理解し、病理解剖所見を理解する。
- 2) 剖検され固定された後の臓器肉眼検討会に参加し、脳、胸腹部臓器の解剖学と疾患の肉眼所見を理解する。
- 3) 剖検された症例の臨床所見と病理所見の相関を理解し、臨床病理検討会(Clinicopathological conference, CPC)で発表を行う。
- 4) 関心のある疾患の光顕標本を顕微鏡で観察し、顕微鏡的所見を理解する。

III 学習方略(LS : Learning Strategy)

- 1) 死体解剖保存法、死亡診断書、病理解剖に関する遺族の承諾書、病理所見の記録法、病理剖検輯報などについて講義を行う。
- 2) 与えられた剖検症例につき、臨床の経過と剖検で明らかにしたい問題点を把握し、その上で病理所見を検討する。両者を総合して病態を理解し、臨床病理検討会(CPC)にて発表を行う。
- 3) 関心のある疾患の光顕標本を顕微鏡で観察する。

必須事項: 臨床科のみを研修しても、少なくとも1例はCPCを行う。

IV 学習評価(Ev :Evaluation)

知識: CPC レポート、病理診断レポートの評価。

技能: 病理解剖の方法とリスク管理の評価。

態度: 指導医、検査技師による観察記録評価。

検査科(病理)研修における週間予定

曜日	午前	午後
月	標本肉眼検索と切り出し	鏡検し病理診断
火	同上	同上
水	同上	同上
木	同上	同上
金	同上	病理検討会